

### 3-8 大学情報化職員研修会

本研修会は、職員による教育支援、人材育成支援の積極化を図るため、大学抱える教育問題を点検・確認し、担当業務の中でITを駆使して、解決に向けた企画・提言および行動が可能となるよう、コーディネート力、マネジメント力の養成を目的として開催するものである。研修会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：山田 憲男、日本女子大学）を継続設置して対応した。

#### (1) 開催要項の決定と実施準備

本年度は、新たな企画として、優れた教育支援の取り組みを行っている大学の事例紹介のコーナーを設け、参加者に分科会のテーマを超えて知見を広げることとした。プログラムの構成は、全体会と分科会で構成した。全体会では、職員に対する期待と求められる役割について、大学経営者の立場から基調講演を実施することとし、両日程とも菅野 卓雄氏（東洋大学理事長）に講演いただくこととした。また、これからの授業改善をテーマに、井端事務局長より問題の所在や大学側、教員側の課題等について共通理解を図るためのセミナーを行うこととした。なお、このセミナーでは、携帯電話を利用し、参加者の理解度把握を随時確認しながら行うこととした。

分科会では、業務およびテーマ別に10の分科会を設け、それぞれの業務の中で教育支援、人材育成支援への可能性について、解決策を模索することとした。

#### 平成18年度大学情報化職員研修会開催要項

##### 1. 開催趣旨

大学教育の成果である人材育成が社会から問われている。創造性、即戦力、基礎学力など人間力の低下が指摘され、学生の質保証が取り沙汰されるなど、教育全般に亘り改革が求められており、それには、理事会をはじめ教員・職員による人材育成の取り組みが不可欠であるが、とりわけ職員には、教育支援、人材育成支援の取り組みをコーディネート、マネジメントする能力が要請される。問題解決に向けた取り組みについて可能性を模索する中で業務を点検し、IT活用による教育改善および人材育成支援、望ましい情報環境や運営組織の在り方など、大学改革に不可欠な課題について事例紹介、意見交流を通じて職員一人ひとりの資質の向上を目指すことを目的に本研修会を開催する。

## 2. 研修の進め方

本研修会は、研修の主旨を理解するための全体会（講演等、事例紹介）を行います。その後、テーマ別の分科会形式に移行します。分科会では、趣旨に沿ってサブテーマの内容を中心に討議を行い、問題解決のための方途を探ります。また、必要に応じて、参加者の中からあるいは外部関係者を招いて先進的な取り組み事例の紹介を行います。

## 3. 参加資格

加盟大学教職員：当協会加盟大学・短期大学の職員および教員。

賛助会員：本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方。

## 4. 開催日程・会場

A日程：10月18日（水）午後0時30分開始～20日（金）正午解散

B日程：11月8日（水）午後0時30分開始～10日（金）正午解散

会場：浜名湖ロイヤルホテル

（〒431-0101 静岡県浜松市雄踏町山崎4396-1 TEL. 053-592-2222）

※ 本年度は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。原則としてツインルームとし、部屋割りは当方で割り当てます。

## 5. 分科会

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解を深めます。

A 日程：

- A-1 学生基本情報の活用
- A-2 財務情報の戦略的活用
- A-3 個人情報保護対応
- A-4 戦略的教育支援
- A-5 戦略的な大学Webサイトの構築

B 日程：

- B-1 学びの主体性を喚起する学修支援システム
- B-2 キャリア形成支援
- B-3 教育学術情報政策
- B-4 ICカードを利用したキャンパスライフ支援
- B-5 ITを活用したコミュニケーション

## 6. 全体会

基調講演：「学校法人（大学）の経営に於いて期待される職員の役割」

菅野 卓雄氏（東洋大学理事長）

現在日本の社会では、大学を設置している学校法人とその大学の経営に於いて、教員以外の職員も大きな役割を果たし、その寄与は不可欠であることが十分に認識され、正当に評価されているとは言い難い。私立大学の経営に係る高度の専門性と経験の集積・継承、国際社会での共通性等に裏付けられ、特に情報ネットワークを活用した高い企画能力、実行力、評価力をもって理事会における業務決定を輔弼し、業務執行担当理事のもとで、学校法人（大学）の経営の担い手になることが職員に対し求められている。

本講演では、職員に対する期待と求められる役割等について共通理解を持つことを目的とする。

## 7. 事例紹介

基調講演終了後、各分科会開始前に、大学としての教育支援のあり方を理解するために有用な事例紹介を行います。事例紹介は複数の発表から参加者の興味・関心に応じて二つ選択します（参加する分科会によっては、聴講が必須の発表もあります）。詳細は本研修会Webサイトに随時更新します。聴講希望の申込みは事前にWebサイトを通じて行います。

### A 日程：

帝塚山大学 「eラーニング『TIES』の取り組み」

札幌学院大学 「電子的な学生指導シート『はぐくみ』の活用」

名古屋学院大学 「キャンパスコミュニケーションシステム」

### B 日程：

日本福祉大学 「循環再生産型学習スタイルによる人材育成」

関西国際大学 「キャンパスマイレージによる学習意欲向上の取り組み」

名古屋学院大学 「キャンパスコミュニケーションシステム」

札幌学院大学 「電子的な学生指導シート『はぐくみ』の活用」

## （2）開催結果と次年度の計画

参加者は100大学、2短期大学、賛助会員3社の総勢238名であった。開催結果の詳細は、資料偏【資料13】を参照されたい。参加者の満足度は総じて高く、新たに実施した事例紹介も好評であった。参加者数について、全体としては若干減少したものの、1分科会あたりの参加者はむしろ増えている。

19年度の計画は、基本的に本年度の枠組みを踏襲して企画することにしてはいるが、情報センター部門の参加者が減少していることから、関係者が参集しやすいテーマで新たに分科会を設置することを検討している。また、既設の分科会については、本年度の討議結果を踏まえ、最適なテーマを設定することにしてはいる。